



松本峻介《りんご》1944年 個人蔵(板橋区立美術館寄託)

戦後80年

2025.11.8 土
sat

2026.1.12 月・祝
mon/holiday

2025年12月9日(火)より、
一部展示替えがございます。

開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日、11月25日(火)、12月29日(月)～1月3日(土)

(但し、11月24日[月・休]、1月12日[月・祝]は開館)

観覧料：一般900円 大学生600円 高校生以下無料

※65歳以上・障がい者割引あり(要証明書)

主催：板橋区立美術館 青幻舎プロモーション

板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27 tel: 03-3979-3251 fax: 03-3979-3252
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

戦争と
子どもたち

戦後80年 戦争と子どもたち

今から約80年前、日本の美術家たちは戦中・戦後を生きる子どもたちをどのように表現したのでしょうか。また、当時の子どもたちはどのような美術に触れていたのでしょうか。

戦時下、材料が配給制となり、発表や表現に制限が加えられる厳しい状況においても、美術家たちは子どもたちを希望の象徴として表現しています。しかし一方で、当時の子どもたちは「少国民」として育まれる存在でもありました。出征する兵士を見送り、勤労奉仕に参加するなど、総力戦を支える一員としての姿もまた、作品に表されています。そして戦後、焼け野原となった場所から再び立ち上がる時にも、子どもたちの姿は心の支えとして描かれたのです。

本展では、戦時中から終戦直後にかけて制作された、子どもを主題とする作品や、子どもたちに向けた絵本、教科書、紙芝居などの大人が提供した印刷物、さらには子どもたち自身が戦時下に描いた作品をご紹介します。これらの「子ども」をめぐる美術を、その時代背景とともに読み解くことで、激動の時代に美術家たちが子どもたちに向けていた眼差しとはどのようなものであったのかを検証します。



1



2



3



4



5



6

1. 小杉放庵《金太郎遊行》1944年 栃木県立美術館/2. 北川民次《作文を書く少女(慰問文を書く少女)》1939年 名古屋市美術館/3. 中尾彰《勤労奉仕》1944年 茅野市立北山小学校/4. 水原房次郎《夏の夜 戦果をききいる少年達》1942年 福岡県立美術館/5. 麻生三郎《子供》1948年 弥栄画廊/6. 青柳喜兵衛《天翔ける神々》1937年 北九州市立美術館

関連イベント

講演会・対談

参加無料、定員60名
要事前申し込み

11月29日(土) 14時~15時30分

「子どもたちの戦争」

小林 エリカ 氏(作家・アーティスト)

12月7日(日) 14時~15時30分

対談：松本竣介の「子どもの時間」

松本 莞 氏(松本竣介次男) 田中 淳 氏(大川美術館館長)

12月20日(土) 14時~15時30分

「戦時美術の『子どもたち』」

河田 明久 氏(千葉工業大学教授)

12月27日(土) 14時~15時30分

「モダニズム画家と戦争と子ども」

弘中 智子(板橋区立美術館副館長)

スライドトーク

11月15日(土)、12月6日(土)

各回14時から30分程度

参加無料、定員60名

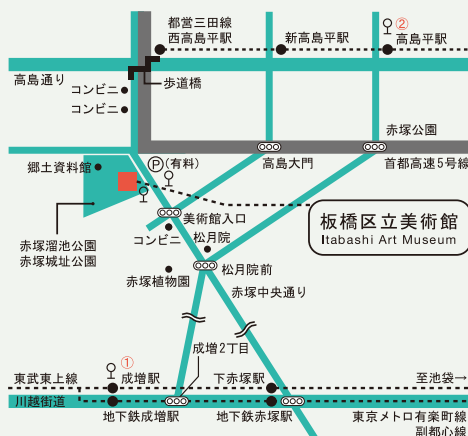
申し込み不要

当日1階講義室にお集まりください。

申し込み方法などの詳細は当館HPをご確認ください。



交通案内



徒歩 | 都営三田線「西高島平駅」下車約14分

路線バス(1時間に1~2本程度 所要時間約10分) |

① 東武東上線「成増駅」北口2番のりば「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行きにて「区立美術館」下車 *東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可(5番出口)
② 都営三田線「高島平駅」西口2番のりば「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行きにて「区立美術館」下車

タクシー | 東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分



板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27
tel: 03-3979-3251 fax: 03-3979-3252
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>